

個人邸におけるエクステリアの改修計画

岡本庄平, 沈 悦, 山本 聡, 城山 豊, 光成 麻美

Repair plan of the exterior in the personal house

Shohei OKAMOTO ,Yue SHEN , Satoshi YAMAMOTO , Yutaka SHIROYAMA , Asami MITSUNARI

【Abstract】

The garden has been utilized very much as the space that did life wealthily by a gardening boom after the 1990s. It is used as a place of the communication with the local person without only enjoying the use in individuals, and staying. I suggested the repair plan from the viewpoint of landscape in a repair plan of the outside space in the personal house in Awaji city by this production for the site that large-scale, had various elements and scenes, space with the publicity. Specifically, this is the suggestion that made the unity such as the natural posture in the whole space. 1) The formation of the topography which was full of ups and downs while securing space for grand golf. 2) The formation of the new base by having installed a tree house-shaped tea-ceremony room in the important viewpoint ground. 3) Principle about removal and the transplant of the existing tree, and Planting full of the changes that adopted a tree and herbaceous plant with the color taste.

Key words: landscape, personal house, open space, landscape garden

1. 背景と目的

1990年代以降のガーデニングブームにより、庭は生活を豊かにする空間として大いに活用されてきた。その利用は個人で楽しむだけにはとどまらず、オープンガーデンやコミュニティガーデンなど、地域の人とのコミュニケーションの場としての利用もされている。このような活動から、我が国においても私的な空間である個人庭園の公共的展開が可能であると言われてきている（高橋・下村 2001）（相田 2001）。本報告では淡路市での個人邸におけるエクステリアの改修計画にあたって、個人の敷地でありながらも大規模で様々な要素や景観、公共性をもった敷地に対して、ランドスケープの観点から改修計画を提案することを目的とした。

2. 進高橋・下村め方

現地視察・測量調査・施主のヒアリングから現況を整理し、試案として複数の計画設計案を作成、施主とプランを検討した後、本案を作成した。

3. 対象地の現況分析

3.1 対象地の概要

対象地は兵庫県淡路市南部に位置し、海岸沿いから数キロメートル離れた丘陵地にある。周辺環境は田んぼ・ため池といった農用地が多く、植生はウバメガシ二次林・竹林・水田で構成される。家族構成は5人家族であり、敷地面積は約1.4haと広い。また、グラウンドは地域の方々とランドゴルフをする場として活用されている。敷地の中には住宅背後の急斜面を除き、南北150m東西120mのエリアは日常によく使われている、その高低差は大体7mがあり、ほぼ南向きになっている。

3.2 既存ゾーニングと動線

敷地内はグラウンド、ため池、駐車地、雑木林など通常の個人邸にはあまりない要素で構成されており、使い分け・動線は図1のようであった。

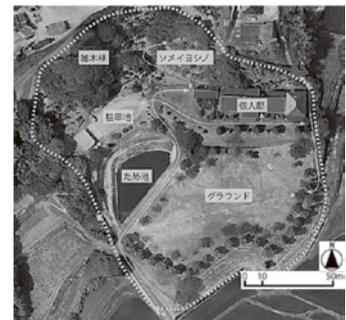


図-1 全体の現況平面図

3.3 既存樹木

敷地上部にはウバメガシ、モチノキ、ハゼで構成される雑木林とソメイヨシノが広がっている。

駐車地、家屋の周囲には多様な樹木が植わっており、駐車地にはコブシ、ハイビャクシン、イロハモミジ、コナラ、ク

ロマツ、タケ類など、家屋周りにはカイヅカイブキ、クロマツ、サツキ、サルスベリ、シダレザクラなどが挙げられる。また、グラウンドには周囲を縁取るようにクスノキ、その内側にソメイヨシノが列状に植栽されている。また、ソメイヨシノは一部樹勢の悪いものも見られた。

3.4 景観資源

対象地は敷地全体が傾斜になっており、南の低い位置からゾーンごとに平地が広がっている。西部にはため池があり、南部の平地からは遠方の田園風景の眺めなど、外部の風景を借景として取り入れる絶好な視点場にもなっている。

3.5 施主の要望

施主は自然的景観を好み、人工的または単調な空間を変化させていきたいとのことであった。具体的には平面的なグラウンドやため池法面、列状の既存樹木や密集して植えられたソメイヨシノなどであり、このような空間に対して改修の提案を行い、今後施主が敷地を改修するにあたっての方針となるようにした。

4. 試案の提案

4.1 試案の概要

施主の要望を踏まえ異なる特徴をもった複数の試案を作成・検討し、比較検討を通して良い部分や課題を抽出して本案につなげていくものとした。

4.2.1 A案「縮景型」

現況の傾斜・縁の輪郭といった等高線を元に、地形にあわせてそこから派生した造成を計画し、自然風景を構成した。また日本庭園を参考にし、「緑・水・石・景物」といった日本庭園的な要素を取り入れ観賞的な空間を取り入れた。

4.2.2 B案「風景型」

築山による地形の変化をつけることで、平地スペースを確保しながらも起伏に富んだ風景的な空間を創出した。広場ではグランドゴルフができ、周辺住民とのコミュニティスペースの維持や風景全体のバランスの確保を図っている。

4.2.3 C案「整形型」

家屋の洋風な外観を全面的に生かし、そこから整形的な景観を展開していったものである。視点場に合わせた景観軸と直線による機能的な動線軸により、整形的な印象を持たせつつも自然あふれる空間にしている。

4.3 試案の総合評価

三つの試案をもとに施主にプレゼンテーションし、意見を

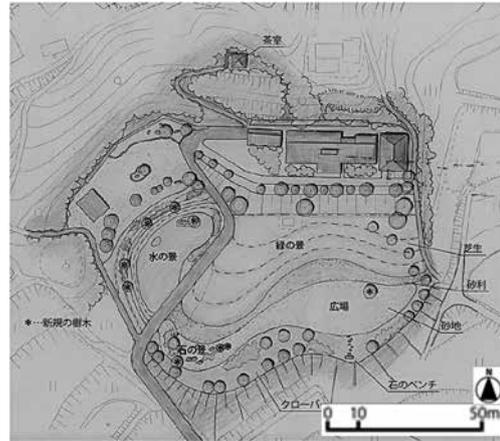


図-2 A案「縮景型」の計画図

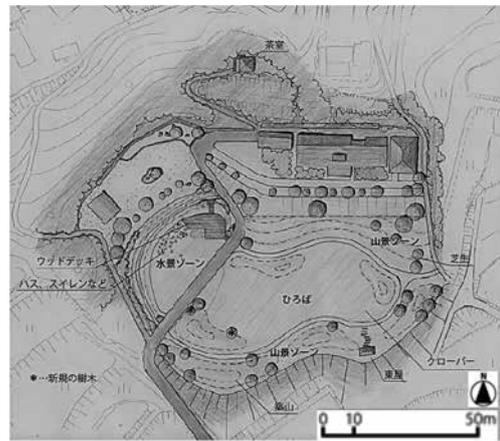


図-3 B案「風景型」の計画図



図-4 C案「整形型」の計画図

伺った。三案の比較は表-2のようになり、施主の評価が高かったのはB案（風景型）であった。以降の計画はB案を中心に展開することとした。

表-1 試案の比較検討

	自然体	管理のしやすさ	平地スペースの確保
A案(縮景型)	○	×	×
B案(風景型)	○	△	○
C案(整形型)	×	△	○

※ ○…良い △…普通 ×…良くない

4.4 B案の意見交換内容

試案の検討からB案（風景型）をベースに本案を設計することとなり、全体としてはどれだけ管理の手間や労力を抑えながら自然体にてできるか、様々な緑のトーン・色合いを組み込めるかに着目されていた。表-3はB案（風景型）に関して新たに出た意見をまとめたものである。

表-2 意見のまとめ

場所	要望
ため池	<ul style="list-style-type: none"> • もっと法面に変化があってよい • 緑の輪郭の変化など、大きな土木工事を伴ってもいい
グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> • 自宅からひろばにかけて歩いて行けるぐらいの傾斜でつながってもよい • 築山と斜面が自然につながるように
駐車地	<ul style="list-style-type: none"> • もっと植栽的な変化を
雑木林	<ul style="list-style-type: none"> • 密集したソメイヨシノの部分に変化を • 茶室は和モダン、自然素材が好きでそのようなディテールに • 茶室の作法、構成などは特に気にしない

5. 本案の提案

5.2 全体方針とゾーニング

新たに出た意見を踏まえ、計画地は図-5のようにゾーンと動線を考えた。グラウンドの真ん中に広場、その周囲を起伏に富んだ地形を構成することで平地スペースを確保しつつも自然体な景観を表現した。ため池と駐車地周辺の移動頻度の高い部分は、植栽的な変化をつけ色味のある空間にした。雑木林のゾーンは家の裏から上がった所に視点場となる茶室を設置し、その周辺のソメイヨシノの植栽配置変更を行った。

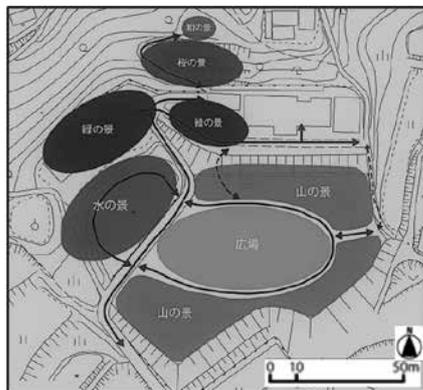


図-5 本案のゾーニング図

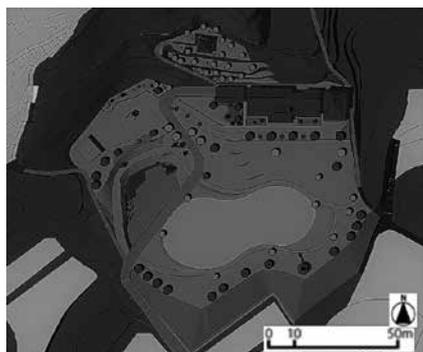


図-6 本案の計画図

5.3.1 「広場」「山の景」ゾーン

広い平地のスペースをそのまま取り、周囲に築山のような微妙な地形の変化を加えることで、起伏に富んだ緑のある自然的な空間を創出した。また樹木も最小限に止めることで、周囲の道は歩きながら周辺の棚田の景観が見える空間となっている。棚田の景観を一望できる視点場には東屋を設置し、グランドゴルフ等をするときの休憩地にもなる。家側の斜面上部からはなだらかな動線でつなげ、アクセスのしやすさも改善した。

5.3.2 「水の景」ゾーン

車で入口から入って最初に見える開けた空間であり、ウッドデッキや植物などで彩りのある空間を演出した。試案ではウッドデッキからひろばの道へつながっていたが、大きく造成を行い直接道でつなぐことで、池の輪郭も変化させた。道沿いにはグラウンドにある既存のイチョウを移植し黄葉する樹木も加えることで、季節の変化による色味もだしている。西側の既存の擁壁は、背丈のある水生植物を植えることで人工的な構造物を隠した。



図-7 全体パース

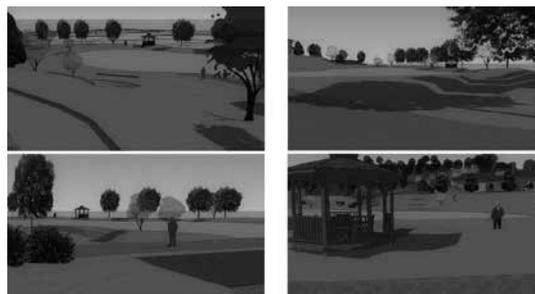


図-8 「広場」「山の景」ゾーンのイメージ



図-9 「水の景」ゾーンのイメージ

5.3.3 「緑の景」ゾーン

駐車地から家にかけての道は移動頻度の高い場所となるため、草本類も取り入れ華やかな空間にした。植栽は図-10のようなゾーニングで設計した。



図-10「緑の景」ゾーンのゾーニング図

駐車地南部には地被類として宿根バーベナ、上部はヒューケラ、ユリオプスデージーなど色味のあるものとグラス類など落ち着いた植栽の2つのゾーンを構成、家の手前は新規植栽はほとんど行わず、芝とウッドチップ舗装により地表部分の変化を生んだ。



図-11「緑の景」ゾーンのイメージ

5.3.4 「桜の景」「和の景」ゾーン

段状になった斜面にソメイヨシノが等間隔に植えられているが、部分的に除伐することで人工的な印象を取りのぞき、低木類も不均等に取り入れ自然的な植栽配置にした。また、坂を上ると敷地最上部には茶室を設置し、周辺は景石や植栽で小さな和風空間を構成している。茶室からは敷地内全域と周辺の山並みの景観が一望でき、視点場を利用した拠点形成した。



図-12「桜の景」ゾーンのイメージ



図-13「和の景」ゾーンのイメージ

5.4 植栽計画

新規植栽は主にため池周辺とエントランスゾーンにかけて行っている。既存樹木に関しては、グラウンド周辺のクスノキとソメイヨシノを部分的に撤去し周辺景観が眺望できるようにした。駐車地周辺から家屋はゾーニングに合わせて部分的に移植・撤去、雑木林の部分は基本的には改修せずに既存のまま維持していく方針である。

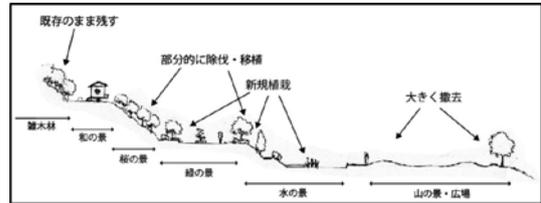


図-14 植栽イメージ断面図

5.5 工事費概算

本案の提案通りにすべて施工した場合の目安として、工事費の概算を算出した。

表-3 工事費概算の一例

工種	種別・名称	形状寸法	数量	単位	単価	金額	備考
敷地造成工	掘削工		184.5	m ³	1,500	276,750	
	盛土工		305.9	m ³	2,500	764,750	流用土、購入土
構造物撤去工	構造物取り壊し工	W 3.0'D 2.0'H 2.5	1.0	式	100,000	100,000	倉庫
	伐採・伐根工	C=0.6	20.0	本	24,500	490,000	処分費含む
⋮							
総工事費						11,517,135	

6. まとめ

本演習では敷地面積の広い個人邸に対してランドスケープの観点から複数の提案を行った。改修計画の具体像は以下の通りである。

全体的には、施主の要望を考慮し様々な要素を組み込みつつも全体が自然体のようなまとまりのある空間を提案した。具体的には、グラウンドはコミュニケーションスペースの維持として周辺住民とグランドゴルフのできるスペースを確保しつつ、周囲に起伏に富んだ地形の変化を加えることで自然風景的な変化のある空間をつくった。重要な視点場となる敷地上部には、地表面から床面を60cm浮かせた茶室を設置することで眺望を確保し、新たな拠点も形成した。茶室手前があるソメイヨシノの木々は、造成は行わずにメリハリのある植栽を提案し、より自然的な景観となるようにした。また、移動頻度の高いため池周辺には水生植物や紅葉する木々の設置、駐車地周辺には草本類も用いた植栽的な変化をつけることで、色味のある空間を演出した。

最後にこの提案の検証と工事費や維持管理費との兼ね合いをさらに検討していく検証が必要あり、今後の課題としたい。

参考文献

高橋ちぐさ・下村孝(2001) ガーデニングブームの実

態と背景, ランドスケープ研究 65 (1) . 27-32
相田明・進士五十八 (2001) 先進的事例を通じた我が
国におけるオープンガーデンの意義. 東京農業大学
集報 46 (3) ,154-165